

授 業 科 目 名	必修・ 選択別	単位数	対象 学年	学 期	曜・限	主に使用 する言語	その他に使用 する言語	担当形態
総合診療科・総合外科	必修	2	3	2	月～金	日本語	なし	オムニバス

【担当教員】 上田貴威 塩田星児 他

【科目名の英文】 General Medicine／Comprehensive Surgery for Community Medicine

【授業の概要・到達目標】

地域医療に従事する様々な職種による講義や診療所実習を通して、地域における保健・医療・福祉の在り方と現状及び課題、関係する各職種の役割を理解し、地域医療に貢献するための能力獲得を目指す。全人的医療の提供に資する各モデルについて事例検討により学ぶ。プライマリ・ケアで頻度の高い症候・疾患に対する内科的・外科的診療の基本的な考え方を学ぶ。

具体的な到達目標	医学科ディプロマポリシーとの対応					
	1	2	3	4	5	6
1. プライマリ・ケアにおいて頻度の高い疾患について、症候・病態生理・診断・治療について概説できる	○					
2. BPS モデルに基づき、患者の心理的・社会的背景を知る意義を概説できる				○		
3. 患者中心のケアモデルの構成要素や実践の意義を概説できる				○		
4. 行動変容ステージモデル別の対応について概説できる				○		
5. チーム医療の意義、医療チーム構成員の役割分担と連携体制を概説できる		○				
6. 地域包括ケアシステムの概念を理解し、地域における保健・医療・福祉の多職種間連携の必要性や医療保健福祉制度を概説できる					○	
7. 健康の社会的決定要因(social determinant of health)について概説できる				○		
8. 地域医療に興味を持ち積極的に実習に参加する					○	
9. 患者情報の守秘義務を遵守し、適切な取扱いができる				○		
各 DP への関連度 (計 10)	2	1		5	2	

【授業の内容】 暫定版を記載しております

回数	授業項目	授業内容	担当講座・教員	方法
1	医療総論	専門医・キャリアパス形成	総合外科・上田	講義
2	特別講演	看護師特定行為研修制度と活用	看護部・看護師／荒金	講義
3	腹部診断学(1)	黄疸の診かた	総合外科・高山	講義 (PBI)
4	チュートリアル1	プライマリ・ケアでの臨床推論	総合診療科・塩田	PBL・発表
5	チュートリアル2	行動変容	総合診療科・宇都宮	PBL・発表
6	オリエンテーション	診療所実習オリエンテーション	総合診療科・堀之内	講義
7	特別講演	病院総合診療医 (仮)	佐賀大学・多胡	講義
8	特別講演	MSW の役割・医師との関わり	患者支援センター・小野	講義
9	チュートリアル3	地域包括ケア	総合診療科・土井	PBL・発表
10	特別講演	大分県の地域医療 (仮)	宮崎医院・宮崎	講義
11	チュートリアル4	BPS モデル	総合診療科・吉村	PBL・発表
12	特別講演	医師と医師会	三愛メディカルセンター・三島	講義
13	特別講演	地域医療の醍醐味	山香病院・小野	講義
14	特別講演	腹痛の診かた	清瀬病院・白石	講義
15	腹部診断学(2)	炎症性疾患に対する診断と治療1	総合外科・高山	講義 (PBI)
16	腹部診断学(3)	悪性腫瘍の診かた	総合外科・平塚	講義 (PBI)
17	腹部診断学(4)	炎症性疾患に対する診断と治療2	総合外科・平塚	講義 (PBI)
18	チュートリアル5	健康の社会的決定要因	総合診療科・堀之内	PBL・発表
19	診療所実習	診療所実習	大分県内の診療所医師	シフトリング
20	特別講演	健康危機管理の拠点としての公衆衛生行政の役割	県保健福祉部・池邊	講義
21	チュートリアル6	患者中心の医療	よつばファミリークリニック・藤谷	PBL・発表

<p>【アクティブラーニングの内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域医療において頻度の高い症例を用いた学習では、フェトリアル形式や Problem based Interview(PBI)を採用し、学生に診断や治療について自発的・積極的に考えて意見交換する機会を与える。(タイプ B、C) シャドウイング実習で訪問診療・在宅医療や医療と福祉の連携現場を経験し、その経験を振り返るためのレポート作成を行う。(タイプ A) 	<p>【その他の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域医療に興味を持ち理解を深めるために、必要に応じて実習前に地域医療の医療サービスや地域包括ケアシステムなどについての学習を行う。 講義テーマは地域医療の現場において、急性期から回復期や慢性期への医療マネージメントの考え方を学べるものとする。
--	---

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	必要に応じて下記に示した教科書で自己学習を行う(25h)。特にグループ学習においては、シラバスの内容などを踏まえて事前に関連領域について学修した上で、事例シートなどを用いて問題点の抽出やその上での各課題への回答を実施できるような準備学修が望ましい。また、診療所実習においてはオリエンテーションの内容も踏まえつつ、地域包括ケアシステムの中での診療所、プライマリ・ケア医の役割などについて、さらにはプライマリ・ケアでよく遭遇する生活習慣病などについて事前に学修しておくのが望ましい。
事後学修	診療所実習(シャドウイング)に関するレポート作成を行う(5h) グループ学習のない各講義や特別講義についても、講義資料や各種関連教科書などを用いてその内容の復習、および身の回りの事例との関連について検討する事後学修が望ましい(15h)。
想定時間合計	45 h

【教科書】教科書は特に指定しないが、必要に応じて以下の図書を参照することを推奨する。

- ①地域医療学入門(責任編集)岡崎仁昭、松本正俊(監修)日本医学教育学会地域医療教育委員会・全国地域・医療教育協議会合同編集委員会、診断と治療社 2019年7月 ISBN 9784787823847
- ②新・総合診療医学 診療所 総合診療医学編 第3版(著者)藤沼康樹、カイ書林、2019年6月 ISBN 9784904865439

【参考書】

- ① 症例で学ぶ外科診療 Clinical Scenarios in Surgery、(編集)Justin B. Dimick, Gilbert R. Upchurch Jr, Christopher J. Sonnenday、(訳)安達洋祐、医学書院、2017年9月 ISBN 9784260030588
- ② 外科専門医への検査・処置手技の fundamentals、(編集・執筆)白石 憲男、上田 貴威ほか、メジカルビュー、2018年10月 ISBN 9784758315357

【成績評価方法及び評価の割合】

診療所実習評価(レポート+実習先の指導医の評価:30%、到達目標8~9に対応)、筆記試験(70%、到達目標1~7に対応)で評価し、60点以上を合格とする。ただし診療所実習の態度や評価に問題のある者は単位を認めない。

【注意事項】レポートの提出が期日より遅れた場合にはレポート点数を10%減じる。

【備考】講義内で実施されるグループディスカッションの参加態度について、学生同士でピア評価する場合がある。この評価が極端に低い場合は面談指導を行う予定である。

リンク	URL	
教員の実務経験の有無	○	
教員の実務経験	医師	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○	
教員以外の指導に関わる実務経験者	大分県内の開業医、看護師、ソーシャルワーカー、大分県保健福祉部担当者	
実務経験をいかした教育内容	本コースには診療所実習(シャドウイング)を含む。この実習では大分県内の開業医のもとで外来の見学実習を行う。また、地域における多職種連携において複数の職種担当者が講義を担当する。	
授業形態	対面授業	